

実践② 曾於市立菅牟田小学校

1 はじめに

本校は、児童数 12 人の極小規模校である。旧大隅町岩川に属し、曾於市役所大隅支所から校区中心まで 5 km 程離れている。校区は 9 つの自治会で構成され、そのうち小学生がいる自治会は 3 つであるが、校区全戸が P T A 会員（正・準）となり、学校教育にも協力的である。

また、学校教育目標『たくましくあしたを拓き、夢実現をめざす菅牟田っ子の育成』を掲げ、その具現化を図るため言語活動や表現・読書活動の充実努力、読書祭りでのお薦めの本の紹介や個人の読書目標冊数の設定、各種コンクールへの積極的な応募を通して読書指導の充実を図っている。

2 活動の実際

(1) 読書祭り

本校では、読書の楽しさや本の内容から自己の生き方を考えることができる児童育成に向けて、読書活動を推進するために、年 2 回の「読書祭り」を実施している。

はじめに読書に対する意識調査を行い、意図的な働きかけを行ったのち、児童自ら全体で取り組むことを決めている。内容や役割分担が決まったあとは、必要に応じて校内全職員や関係機関と連携を図りながら準備を進めている。

また、多くの方に発表を聞いていただけるように、保護者や地域に呼びかけを行ったり、学校と地域が連携する行事の際に、読書祭りの様子を掲示するなどの場の設定を行ったりしている。

当日は、児童がこれまで読んできた本の中からお薦めの本を様々な表現方法で発表し、その発表に対しての感想を「感想メモ」に書いて渡したり、「どくしょのとびら」を使って自分の満足度を示したりする活動も行っている。

これらの活動を通して、年々児童の読書への関心・意欲が高まるとともに表現力・読解力の向上にもつながっている。



【読書祭りの様子 1】



【読書祭りの様子 2】



【読書祭りの様子 3】

(2) 朝読書の充実

毎週火・木・土曜日に教児共に朝読書に取り組んでいる。入学して間もない 1 年生のクラスには、高学年を中心とした総合委員会の児童が、読み聞かせを 4 月いっぱい行っている。

また、月に 1 度、保護者及び地域の学校応援団の方々が「子ども読書の日」前後の木曜日に読み聞かせに来てくださっている。



【保護者の読み聞かせ】



【学校応援団の方の読み聞かせ】

(3) お薦めの本の紹介

毎月1回、その月に読んだ本の中で、読みやすさ・面白さ・読後感など様々な観点から総合的に見て「この本を是非お友達に読んでほしい!」と思った本をジャンルを問わず紹介する機会を設けている。

この活動を通して、児童はこれまで自分では手にすることのなかった様々なジャンルの本を読むようになり、読書に関する興味・関心が深まった。



【お薦めの本の紹介】

(4) 校内における読書環境への取組

本校では各教室から図書室までの動線を「図書室への誘い」と銘打って、児童がより多くの機会を通して図書室を利用するように様々な工夫を行っている。

例えば、各学年の国語科の教材に出てくる登場人物(例:6年~海の命)を廊下に掲示したり、学校応援団の方が読み聞かせを行ってくださった際の感想を掲示したりして、図書室利用の機会が少しでも増えるように工夫している。



【「図書室への誘い」の工夫】



【海の命の教材から】



【子どもたちの感想】

(5) ノーメディアデーの実施

年3回(6月・11月・2月)、ノーメディアデーを実施し、親子でゆっくり読書に親しんでもらう日を設けている。児童や保護者からは、「ふだんゆっくり接することがなかなかないので、親子でゆっくり1冊の本を読む機会ができてよかった。」「親子で共通の話題ができ、話が弾むので大変良い機会になっている。」との感想が寄せられている。

今後もノーメディアデーを通して、親子の貴重なふれあいの時間をもてるように継続していきたいと考えている。

3 終わりに

読書活動の研究に取り組み始めてから3年。児童の読書に関する興味・関心が高まると同時に読書量も増え、これまで知ることのなかった世界を知ることでもでき、言葉の表現力や語彙力も格段に向上した。

これからも読書活動を通して、純粋に「本を読んでいると楽しい。」と思える児童の育成に努めていきたいと思う。



【笑顔あふれる全校児童】